

# 「新・関西観光・文化振興計画（仮称）」（たたき台）

目的：関西の官・民をあげて取り組む観光及び文化振興の戦略的取組の方向性と重点施策を明らかにするもの。期間：2022年4月～2027年3月

○広域で取り組むべき観光・文化行政の役割を明確化し、その上で2027年のありたい姿（目標）に向けた具体的な戦略の方向性を検討  
○関経連の「関西ビジョン2030」や今後策定される関西観光本部の「グランドデザイン」と戦略の方向性を共有化

**① 関西の観光・文化を取り巻く状況**

- ・インバウンドの激減、早期回復は厳しい状況
- ・外出自粛要請等による国内旅行者の減少
- ・コロナ収束後の訪日旅行への高い期待
- ・旅行者に対する地域住民の不安
- ・新たな生活様式に沿った旅行ニーズの高まり（安心・安全の訴求、屋外型観光、マイクロツーリズム、サステイナブル、非接触型の観光サービス、DXを活用した観光需要の創出、分散型旅行の推進等）
- ・半定住需要の顕在化（ワーケーションへの注目）
- ・アーティスト、地域・文化団体等の活動機会の減少
- ・関西文化の担い手の減少（機会）
- ・2022年文化庁本格移転、ワールドマスターズ関西
- ・2025年大阪・関西万博の開催（最先端技術の表出）

**② 関西のポテンシャル**

- ・歴史、文化遺産、伝統文化・生活文化、自然、ジオパーク、食など多彩な観光・文化資源が集積
- ・関西国際空港を玄関に発達した鉄道網、高速道路網が整備されるなど関西圏のアクセスが容易 など

**③ 現計画の成果と課題**

【成果】

- ・コロナ以前は関西のインバウンドは好調に推移
- ・一般財団法人関西観光本部の設立や「KANSAI ONE PASS」、「KANSAI Wi-Fi」など官民一体の取組を着実に推進
- ・関西文化の魅力発信と観光資源として活用機運を醸成
- ・「関西文化の日」を核としたミュージアム連携の促進

【課題】

（観光）

- ・各構成府県市の訪問率の格差が大きく、更なる周遊観光の促進

（文化）

- ・伝統的な日本文化と日常的に触れあう機会の充実
- ・美術館、博物館等の機能強化（見せ方、発信の仕方）
- ・有形・無形の文化財の保存・活用と魅力の発信強化
- ・新型コロナウイルス禍で制約された文化活動の再開への支援（共通）
- ・文化・観光の連携強化による文化価値の再評価・向上
- ・投資の誘導による文化・観光資源の維持発展
- ・文化・歴史の魅力向上（磨き上げ、ストーリー展開）による誘客の促進

**④ 国の動き（「観光ビジョン実現プログラム2020」より）**

- ・目標：2030年 6000万人
- ・観光消費の8割を占める国内旅行需要の喚起、観光産業の回復と体質強化
- ・新型コロナウイルスの収束を見極め、誘客可能な国からのインバウンド促進

**国の動き「文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律」2020年5月施行**

- ・文化資源の保存・活用、文化意識の深化、観光推進

**国の動き「文化芸術基本法」2017年6月改正**

- ・文化芸術だけでなく、観光、まちづくり、福祉、教育、産業その他関連分野を法律の範囲に取り込み、文化芸術の価値を継承発展・創造に活用。

**⑤ 世界の動き UNWTO（「持続可能な開発のための2030アジェンダ」SDGs）**

- ・観光が有形・無形の文化遺産や自然環境に配慮しつつ、地域の雇用や収入を生み出し、その持続可能な発展の推進力となることを目指す

**将来像**

第2～3回目の議論  
ゲストスピーカーの招請

**⑦ 2027年のありたい姿（計画期間における具体的目標）**

（例示）

- 国内外の観光客が関西各地域を訪れ、日本の精神文化など奥深い関西の魅力を感じ・体験し、各地域で新たな交流が生まれている。
- 万博開催後も、関西中を多くの観光客が訪れ、各地域が賑わっている。
- 地域の行祭事などの担い手確保の取組が進んでいる。
- 学習・交流・観光拠点として博物館や美術館が活性化している。
- 関西のアーティスト等が新たな文化を創造している。 など

**⑥ 政策の視点**

（1）ウィズ・アフターコロナ

- ・観光需要の回復に向けた緊急対応
- ・新たな旅のスタイルの普及・促進に向けた対応
- ・デジタル化の進展（DXの活用）への対応
- ・活動の制限を受けた文化芸術家への支援
- ・文化活動の担い手育成 など

（2）ターゲット・イヤー

- ・2022年文化庁の関西移転、WMGを踏まえた対応
- ・2025年大阪・関西万博への対応

（3）大阪・関西万博のレガシーの活用・発展

- ・広域周遊、長期滞在観光に向けた仕組づくり
- ・各地域の取組を結ぶ広域的展開や他分野との横断的な連携
- ・ミュージアム連携等の促進 など

第1回目の議論を踏まえ、以下を記載

- ・デジタル化の進展（DXの活用）への対応
- ・広域周遊、長期滞在観光に向けた仕組づくり
- ・各地域の取組を結ぶ広域的展開や他分野との横断的な連携
- ・ミュージアム連携等の促進

## ⑧ 広域観光・文化振興における関西広域連合の役割

- （例示）
- 広域観光・文化分野における将来ビジョンの提示
  - 国内外のネットワーク形成など広域連携機能のハブ
  - 関西が一体となった取組の先導や情報受発信のプラットフォーム

## ⑨ 戦略的取組の方向性（5年間の取組）

- （例示）
- 大阪・関西万博の開催に向けた取組
  - インバウンドの強化に向けた新たな取組
  - 関西域内の滞在力・周遊力を高める環境整備
  - 関西の豊かな文化資源を活かした文化観光の推進
  - 関西の文化活動の活性化
  - 関西文化を担う次世代づくり
  - 関西ブランド力の向上（関西の奥深い魅力の発信）
- 万博までの取組
- 万博に合わせた取組
- ポスト万博の取組

## ⑩ 観光需要・文化活動回復に向けた取組（コロナ収束までの緊急対応）

- 支援に関する情報受発信（国、自治体等）
- 関西の観光需要の喚起など「観光・文化で今やること」

## ⑪ 目標指標・推進体制・各構成団体の取組等

- KPIの設定
- 本計画の目標に向けた構成団体の役割等を明記